# 総合教育会議における主な意見について

令和7年5月12日に開催した仙台市総合教育会議において,今後の教育課題や重点的取組 に関し,市長及び教育委員から意見があった主な事項は以下のとおり。

### 1 国際的な視点に立った教育について

- ・児童生徒が、相手のことを知り、自分のことを伝えようとする気持ちを持ち、言葉以外の 手段も使いながら、様々な人と積極的にコミュニケーションを図り、協働していく姿勢を 養うことが重要。
- ・英語教育にとどまらず、外国文化と自国文化の理解を深め、異文化理解や多文化共生の理 念を浸透させることや、多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする探究的な 学びの機会とすることが重要。こどもたちの他者や自分自身に対する理解を促すことで、 間接的にいじめ防止や不登校児童生徒の支援にもつながることが期待できる。
- ・外国にルーツを持つ児童生徒が安心して学べる環境を整え、国や文化の違いに関わらずすべてのこどもたちが持てる力を十分に発揮できる場所にすることが望ましく、共に学ぶ日本人児童生徒にとってもグローバル化を体現する効果が期待できる。

## 2 学校における働き方改革・魅力ある教職の実現について

- ・教員という仕事は、こどもたちと感動を共有し、一人ひとりの未来を見据えて共に歩んでいける仕事だが、現場が疲弊し、そうしたやりがいや魅力を見いだせない教員がいる。
- ・デジタル技術の活用による効率化や、教育施策の重点化・焦点化などによって、教職員が 授業づくりや児童生徒と向き合える時間を十分に確保できる環境を整えることが重要。
- ・教職員のウェルビーイングの向上のためには、ストレス軽減やワークライフバランスの改善に係る取組や数値目標だけにとらわれない対応が必要。
- ・学校の負担軽減が必要だが、負担を単に他のステークホルダー移すだけでは解決にならない。教育行政にとどまらない視野の広い検討が必要。

#### 3 いじめへの対策について

- ・本市の最重要課題としてこれまで様々な施策を打ち出し、学校現場においても根気強く取り組み、実践を重ねてきたところ。新たな負担増とならないよう、学校現場やこどもたちへのフォローの充実を図りながら、これまでの対策を検証・修正しつつ、継続的に取り組むことが重要。
- ・これまで発生した事案を分析・類型化し、市内小中学校で共有することで、教職員の対応 力や組織力の向上を図り、いじめの早期発見や丁寧な対応力の定着につなげていくことが 必要。
- ・児童生徒の豊かな心を育む教育についても、あらゆる時間や活動を通して、じっくりと取り組むことが肝要。

## 4 教育課程について

- ・児童生徒が理科の面白さや生活の中の不思議な現象に興味を抱くような特別授業や課外活動などの経験を増やし、興味を持った児童生徒が次のステップに進めるような仕組みを作るなど、理科教育の推進に力を入れてほしい。
- ・体育やスポーツ教育を通じて、単に健やかな体を育てるだけではなく、グループが共通の 目的に向かって協働する場とすることで、お互いの違いや関わり合いの中での役割、立ち 位置を認識できるようになれば、児童生徒の豊かな心の育成につながるのではないか。
- ・東日本大震災から 15 年目を迎え、義務教育世代のほとんどの児童生徒が震災後に生まれた こどもたちとなるなか、仙台版防災教育のこれからのあり方について、命の大切さや思い やりの心を育む防災教育として深めていくべき。

### 5 社会全体でこどもを育てる環境づくりについて

- ・地域社会全体でこどもたちを育てる「仙台版コミュニティ・スクール」について、地域で活躍されている方の参画によって、多くの学校で円滑に推進できているものの、そうした方の多くが再任という形で長年勤めるなど変化が少ないことは課題であり、新陳代謝を促す取組も必要ではないか。
- ・インターネットの負の側面や、情報を正しく読み取る力などを育むためには学校のみならず、家庭での教育も重要であり、両者が連携しながらこどもたちの IT リテラシーを高める取組が必要。
- ・いじめや不登校などの悩みを抱える児童生徒の保護者同士が悩みを共有できる居場所を作るなどの支援や、当事者性のある方々のコミュニティづくりも必要ではないか。

## 6 生涯学習について

- ・開設から75年を迎えた社会学級など、市民が主体的に参加できる多様な学びの場は、本市の歴史の中で積み上げてきたものであり、一朝一夕に成り立つものではない。多くの学級生が主体的に運営をし、成果を地域に還元するという仕組みは本市の重要な資源であり、今後も続けていくべき。
- ・ライフステージやニーズに応じた学びの機会を確保するほか、オンラインを活用した学習 機能の充実など、すべての大人が生涯にわたって学び続ける環境づくりが大切。
- ・児童生徒が学校における探究的学習で培った学びの姿勢を、実際に仙台の地域で発揮できるような環境づくりも必要。